



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しっかり考える子 ことばを大切にする子



長いお箸の使い方

○「天国と地獄の長い箸」というお話があります。

『天国にも地獄にも、どちらにも十分な食べ物が用意されていました。とてもとても大きな鍋をみんなでぐると囲んで食事を頂くのですが、天国の人たちにも、地獄の人たちにも用意されているのは、それはそれは長い箸でした。自分の身長以上もあるような長い箸。必ずその箸を使って食べなければならないというのが、天国・地獄、共通の決まり事でした。

地獄の人たちは、とんでもなく長いその箸で、自分の口に食べ物を運ぼうとしましたが、何度やっても食べ物はこぼれるばかり。食べることはできませんでした。どんなにご馳走が目の前に用意されていても食べることは叶わず、常に飢えに苦しみ、そのせいで争いも絶えない状態でした。

天国の人たちはというと、たくさんおいしいものを食べ、誰もが幸せに満たされた顔をしていました。なぜなら、みんな、その長い箸を人のために使っていたのです。鍋を挟んで向かい側にいる人に「はい、どうぞ」と食べ物を届けていたのです。「まずは、あなたからどうぞ」そう自然に思える人たちの集まる天国は、飢えも争いもない、みな笑い合える幸せの世界でした。』



「思いやり算」って、こんな算数だよ。

- × (かける) = 声をかけよう! (どうしたの?)
- + (わる) = 気持ちを分け合う言葉 (だいじょうぶ? それはこまったね。)
- + (たす) = 助ける言葉 (○○しておげよ、いっしょに○○しよう。)
- (ひく) = 引き受ける言葉 (これから相談してね、ずっと、お友達でいようね。)

どうしたらいいのかな?



ずっと、お友達でいようね。



○自分のことばかり考えていると、周りのことが見えなくなってしまうものですね。

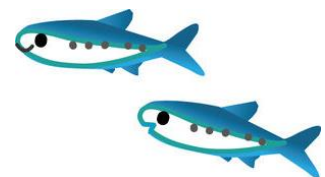
6月の人権朝会で聞いた思いやり算のお話を覚えていますか?

- + たすけあうと大きな力に
- ひきうけると喜びが生まれる
- × 声をかけるとひとつになれる
- ÷ いたわると笑顔は返ってくる

○最後に、童謡詩人・金子みすゞさんの詩を一つ紹介します。

『大漁』

朝やけ小やけだ 大漁だ オオバいわしの 大漁だ。
浜は まつりのようだけど 海のなかでは 何万の
いわしのとむらい するだろう。



さて、みなさんはこの詩を読んでどんなことを考えましたか?